

乳製品需給等情報交換会議

日時：平成 29 年 1 月 27 日（金） 13:30～15:00

場所：（独）農畜産業振興機構 北館 6 階会議室

意見：

（日本乳業協会）

- ・脱脂粉乳の需要は多様化しており、在庫が 5 万トンを下回ると乳業者としては不安感がある。今回、脱脂粉乳の必要在庫量を翌月消費量の 2.5 倍として試算しているが、この考え方も含め、今後議論していきたい。

（Jミルク）

- ・国産生乳増産を図る酪農生産基盤強化のために、乳用牛輸入に対する支援等を行う酪農乳業産業基盤強化特別対策事業を講じることとしており、需給の改善に引き続き努めていきたいと考えており、ご理解と協力をお願いしたい。

（日本パン工業会）

- ・バターについては、不安感なく需要期が過ぎた。量は心配ないが国際価格が上昇しており、価格面で懸念がある。価格面も含めて情報提供してほしい。

（全日本洋菓子工業会）

- ・会員に聞き取ったが、年末年始のバターの需給については問題なかった。価格については心配する声が聞こえており、今後、価格について、この会議で扱ってほしい。

（全国菓子工業組合連合会）

- ・年末年始のバターの需給については問題なかったが、価格は高止まりしている。すぐに国産バターを増産できないことはわかっているが、やはり国産バターのニーズは高く、引き続き国産バターを増やす取組を行ってほしい。

（（一社）日本洋菓子協会連合会）

- ・昨年のクリスマスのバター需要に問題なく、ここ 2 年ほどは安定している。最近はクリスマス期だけではなく、年明けのバレンタイン、ホワイトデーまで長く需要期が続くので、更に動向に注視していきたい。日本の酪農に体力をつけてもらい、輸入バターに頼らないような施策を期待する。

(卸売業者)

- 今回のように年間を通じた輸入数量を発表することは、見通しが立てやすくありがたい。
- 昨年末は、乳業メーカーから需要期前の10月、11月の段階で前倒しの出荷があり、早めにスーパーにバターが供給されたことから、安心感が出て、需給が安定したと考えている。

(中央酪農会議)

- 来年度の生乳及び牛乳乳製品の生産については、Jミルクの予測と大きなずれはないものと考えている。
- 生乳生産基盤の強化に努めているところであり、少しでも増産につながればと考えている。

(東宗谷農業協同組合)

- 台風の影響等で粗飼料の品質が悪くなく、生乳生産への影響を懸念している。輸入飼料等も活用することで影響を緩和したいと考えている。また、省力化も進めており、何とか生乳生産量を回復していきたい。